

令和6年度 地域公共交通確保維持改善に関する自己評価
(及び地域公共交通計画の評価結果) 概要 (全体)

羽島市地域公共交通協議会 (羽島市)

平成27年1月21日設置

令和2年3月 羽島市地域公共交通網形成計画策定
(計画期間：令和2年4月～令和7年3月)

令和5年6月28日 フィーダー系統 確保維持計画策定等

令和6年3月21日 令和5年度評価結果送付

- 評価対象の地域公共交通確保維持事業
- ・地域内フィーダー系統確保維持国庫補助金
 - ・地域公共交通調査事業

1.【Plan】協議会等が目指す地域公共交通の姿

地域の特性・概要・公共交通の取り組みの背景

- 岐阜羽島駅を交通結節点として、広域的には鉄道や路線バスが、地域内ではコミュニティバスが運行
- 高齢化の進展に伴い、都市間移動や日常生活の足として、各地域の移動ニーズにも対応した商業施設・医療施設等へのアクセスの確保が一層重要
- 令和2年3月策定の「羽島市地域公共交通網形成計画」に基づき、当該計画が掲げる本市の地域公共交通目指す将来像である「人と暮らしをつなぎ、みんなで支えあう地域公共交通体系の構築」の実現に向けた取り組みを実施

羽島市地域公共交通計画(令和2～6年度)

※令和6年1月まで「羽島市地域公共交通網形成計画」

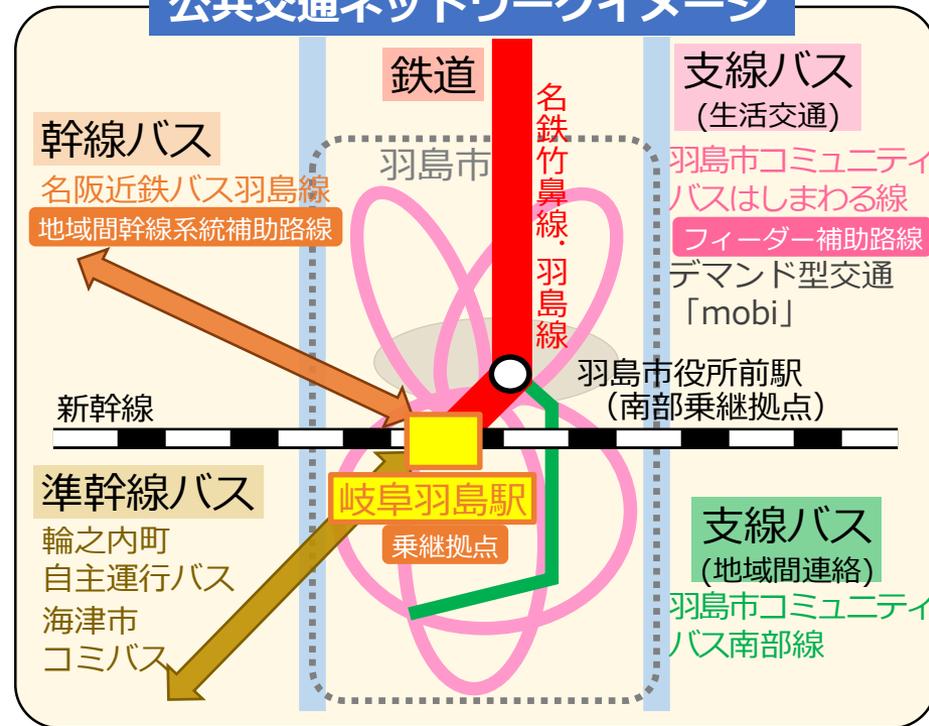
基本理念 『人と暮らしをつなぎ、
みんなで支えあう地域公共交通体系の構築』

目標

- ① みんなの暮らしを便利にする公共交通の実現
- ② 人の交流やにぎわいを生み、まちを活性化させる公共交通の実現
- ③ みんなが知っている、気軽に使える公共交通の実現
- ④ みんなが協力して支えあう公共交通の実現

※令和7年3月次期「羽島市地域公共交通計画」策定予定

公共交通ネットワークイメージ



主要な施策

- 乗降等調査の実施
- 公共交通のPR
- 高校生の通学に対する補助
- 運転免許証自主返納支援事業
- 公共交通利用ガイドの作成
- 多様な主体との連携による利用促進策

| 取組名称 | 取組の概要 | 実施結果 | 実施結果の考察 |
|-------------------|---|--|--|
| 出前講座の開催 | コミュニティバスの乗り方案内や時刻表の見方等、デマンド型交通mobiに関する講座を開催 | 小学校や高齢者のふれあいサロンにて出前講座を開催した。 | 公共交通の利用についての理解を深め親しみを感じられるようになった。 |
| 公共交通のPRの実施 | イベントや市の行事にて、公共交通のPRを実施 | JR、名鉄、名阪近鉄バス、岐阜羽島バス・タクシー、Community Mobilityと連携し、市内イベントで、車両展示やデマンド型交通のPR、グッズの配布を実施した。 | コミュニティバスやデマンド型交通mobiをはじめ、鉄道やバス等の公共交通に対する理解や親しみが深まった。 |
| | 中学生を対象としたコミュニティバスの説明会を開催 | 南部線沿線の中学校等（2校）の進路説明会内で開催した。 （参加人数：親子100組） | コミュニティバスを通学手段の選択肢の一つとして認識してもらった。 |
| 運転手確保対策の実施 | イベント時にコミュニティバスの運転手募集のPRを実施 | イベント参加者の中で、運転手に興味を持った方に対し、情報提供を行うことができた。 | 今後も継続して運転手確保対策を実施する必要がある。 |
| 運転免許証自主返納者等への特典付与 | 運転免許証自主返納者等を対象に、コミュニティバス無料乗車証等を交付 | 新たにデマンド型交通mobiの乗車券を選択肢に追加した。 （R6.4～12月 54人） | 自家用車から公共交通への転換促進に資した。 |

出前講座(ふれあいサロン)



出前講座(小学生乗車体験)

ぎふ羽島駅前フェス2023
(デマンド型交通mobiブース)はしまdeマルシェ
公共交通クラフトコーナー(乗車体験)

調査事業の実施状況

★：地域公共交通調査対象事業

| 調査種別 | 実施概要 |
|----------------------|--|
| 現状把握及び地域ニーズ把握に関する調査★ | <ul style="list-style-type: none"> ○市民アンケート調査・高校生アンケート調査を実施し、現状の公共交通の利用状況や日常生活での移動の実態等を把握 ○住民懇談会を市内3会場で開催し、地域の実情やニーズの把握や利用促進策等について参加者と意見交換を実施 ○デマンド型交通等の新たな運行方式に関する市民アンケート調査を実施し、市民意向を把握予定（令和7年1～2月実施予定） ○乗降等調査を実施し、コミュニティバスの利用実態を把握 ○運転手ヒアリングを実施し、運行に対する課題や提案を聴取 |
| 計画の取りまとめ★ | 各種調査結果等から明らかになった課題をもとに、具体的な目標や取り組み事業を検討し、地域公共交通計画案としてとりまとめ |
| 協議会開催★ | <p>令和6年10月 地域公共交通協議会で計画骨子案を協議</p> <p>令和6年12月 地域公共交通協議会で計画素案を協議</p> <p>【今後の予定】</p> <p>令和7年 1月 パブリックコメントを実施し、市民から意見等を募集</p> <p>令和7年 2月 地域公共交通協議会で計画案を協議</p> <p>令和7年 3月 地域公共交通計画を策定予定</p> |

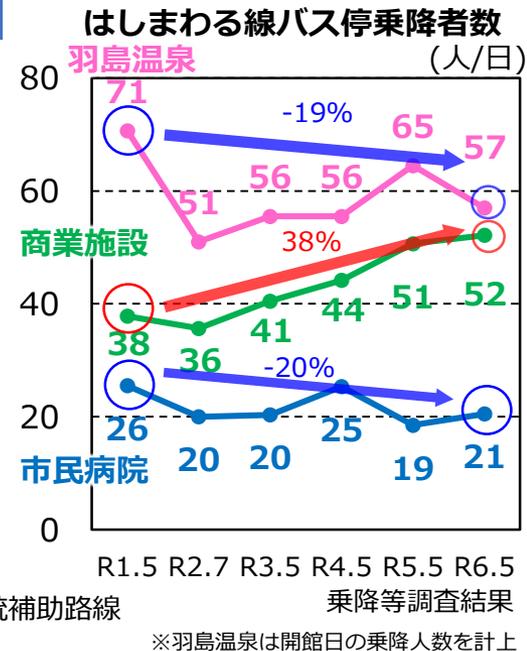
調査結果等から見えてきた課題

- 多様なニーズや地域特性への対応
- 外出を支援する公共交通の構築
- 持続可能な地域公共交通の構築
- 認知度・わかりやすさの向上
- 社会情勢等の変化への対応
- 協働による公共交通の活性化

3. 【Check】 計画の目標の達成状況とその理由についての考察

生活交通確保維持改善計画（R5.6策定）における目標値の達成状況

| 路線名 | 年度 | 実績値 | | | | | | | | | | 目標値 | |
|--------------------|----|------------------|------------------|------------------|------------------|------------------|------------------|-----------------|------------------|------------------|-----------------|--------|-----|
| | | H27 | H28 | H29 | H30 | R1 | R2 | R3 | R4 | R5 | R6 | R6 | |
| ★はしまわる線 (旧・市内線) | | 35,754 (前年比) | 41,552 (+16%) | 49,587 (+19%) | 45,911 (-7%) | 43,851 (-4%) | 33,333 (-24%) | 33,919 (+2%) | 37,860 (+12%) | 41,567 (+10%) | 44,222 (+6%) | 46,790 | 未達成 |
| 東・はしまわる線 | | | 3,828 | 8,785 | 7,878 | 7,021 | 6,495 | 6,669 | 6,782 | 7,333 | 9,108 | 8,380 | 達成 |
| 西・はしまわる線 | | | 4,325 | 8,387 | 7,808 | 7,250 | 5,515 | 5,406 | 5,342 | 5,959 | 6,464 | 6,600 | 未達成 |
| 中・はしまわる線 | | | 2,027 | 13,524 | 13,654 | 13,615 | 9,442 | 10,767 | 12,864 | 15,040 | 15,124 | 15,900 | 未達成 |
| 温泉・はしまわる線 | | | 13,239 | 18,891 | 16,571 | 15,965 | 11,881 | 11,077 | 12,872 | 13,235 | 13,526 | 15,910 | 未達成 |
| 南部線 | | 97,253 (前年比) | 80,268 (-17%) | 62,461 (-22%) | 62,819 (+1%) | 57,492 (-8%) | 42,974 (-25%) | 39,161 (-9%) | 44,671 (+14%) | 48,642 (+9%) | 51,862 (+7%) | | |
| 合計 | | 133,007 (前年比) | 121,820 (-8%) | 112,048 (-8%) | 108,730 (-3%) | 101,343 (-7%) | 76,307 (-25%) | 73,080 (-4%) | 82,531 (+13%) | 90,209 (+9%) | 96,084 (+7%) | | |



目標値の達成状況に関する考察

新型コロナウイルスの影響で減少

はしまわる線

- 令和2年度及び3年度は**コロナ禍の影響**で利用者が大きく減少したが、令和6年度の利用者数は、コロナ禍前の令和元年度の年間利用者数と比べると増加。
- 令和元年5月と令和6年5月の主要なバス停別乗降者数を比較すると、**商業施設は38%増**とコロナ禍前の水準を超えて増加傾向が続いている。**羽島温泉**は令和2年度に大きく落ち込んで以降は50人/日程度で横ばい、**市民病院**は20人/日程度で横ばいとなっている。

南部線

- コロナ禍の影響が出る以前から、高校生の減少に伴い**利用者数の減少**が続いている。
- 令和2～3年度にコロナ禍の影響で大幅に減少した後、令和4年度からは徐々に回復傾向にあり、令和6年度の利用者数は、コロナ禍前の傾向から推計した年間利用者数と比べると増加。

自己評価

評価について、令和7年1月21日に地域公共交通協議会で承認

3. 【Check】 計画の目標の達成状況とその理由についての考察

羽島市地域公共交通計画（R2.3策定、R6.1改定）における評価指標

| 計画目標 | 評価指標 | 実績値 | | | 目標値 | 考察 |
|------------------------------|---|----------------------------------|----------------------------------|----------------------------------|-----------------------------------|--|
| | | R4 | R5 | R6 | R6 | |
| みんなの暮らしを便利にする公共交通の実現 | 利用者数(人/年) ・名鉄竹鼻線・羽島線 ・名阪近鉄バス羽島線 ・羽島市コミュニティバス | 166万6,183 15万1,855 8万2,531 | 177万2,649 16万3,641 9万0,209 | 183万9,101 13万3,638 9万6,084 | 204万0,000 15万3,000 10万2,000 | 【未達成】コロナ禍後は回復傾向にあり、特にコミュニティバスの回復が大きいものの、いずれも目標値までは達成しなかった。 |
| | 商業施設・市民病院の乗降者数(人/日) | 70 | 69 | 73 | 65 | 【達成】市民病院は停滞しているが、商業施設が大きく増加。 |
| 人の交流やにぎわいを生みまちを活性化させる公共交通の実現 | 中心市街地のコミュニティバス乗降者数(人/日) | 321 | 366 | 328 | 390 | 【未達成】商業施設の停留所は回復したものの駅や病院の停留所が下げ止まりとなっている。 |
| | 通勤・通学以外の外出頻度(%) | — | — | 85 | 85 | 【達成】R1に比べ商業施設・公共施設への外出頻度が増加。 |
| | 主要交通結節点での乗り継ぎ利用者数(人/日) | 20 | 24 | 15 | 25 | 【未達成】岐阜羽島駅でののはしまわる線同士の乗り継ぎが減少。 |
| みんなが知っている、気軽に使える公共交通の実現 | 出前講座・乗車体験会の開催回数(回/年) | 1 | 2 | 2 | 12 | 【未達成】目標は達成できなかったものの、コロナ禍後は開催を再開し回数を増やしている。 |
| | コミュニティバス（自宅最寄りバス停）の認知度(%) | — | — | 52 | 73 | 【未達成】普段利用しない方にとって公共交通に対する関心が低下したと考えられる。 |
| みんなが協力して支えあう公共交通の実現 | 協働・連携した取組数(件/年) | 1 | 2 | 3 | 5年間で5件以上 | 【未達成】目標は達成できなかったものの、毎年着実に取り組みを実施。 |

| 計画目標の現在の到達点 | 今後の取組方針 |
|--|--|
| <p>■ 利用状況</p> <ul style="list-style-type: none"> はしまわる線の利用者数は、コロナ禍の影響による利用者数の落ち込みから徐々に回復し、令和6年度の利用者数は令和元年度比で101%とコロナ禍前を上回っている。 商業施設・市民病院での乗降客数は、コロナ禍の影響で令和2年度に大きく落ち込んだが、その後は商業施設最寄りのバス停の伸びが大きく、目標値を達成した。 令和5年10月から運行開始したデマンド型交通「mobi」の利用者数は、[R5.10月]約800人/月→[R6.10月]約1,400人/月で推移。 | <ul style="list-style-type: none"> コミュニティバスのさらなる利便性向上を図るため、地域の移動ニーズに対応した路線の運行や、往復に利用しやすいダイヤの設定等の見直しを行う。 民間と連携した地域公共交通確保の可能性や、定時定路線以外（デマンド型交通、公共ライドシェア等）の新たな運行方式導入の可能性を検討し、地域にあった運行サービス導入に向けた研究を行う。 |
| <p>■ 中心市街地の公共交通</p> <ul style="list-style-type: none"> 中心市街地の公共交通利用者や主要交通結節点での乗り継ぎ利用者数は、コロナ禍の落ち込みから回復してきていたが、目標達成には至らなかった。 | <ul style="list-style-type: none"> JR岐阜羽島駅は広域交流と地域交流の結節点であることから、当駅を結節点とした公共交通ネットワークを確保する。 コミュニティバスでの利用が多い商業施設や羽島温泉への利便性確保のため、施設等と連携しながら敷地内への乗り入れを継続して実施する。 |
| <p>■ 公共交通の認知</p> <ul style="list-style-type: none"> コロナ禍の影響で令和2年以降、出前講座や乗車体験によるPR活動をしばらく実施できなかったが、令和4年度から徐々に再開し、令和5年度は2回、令和6年度は4回開催することができた。 | <ul style="list-style-type: none"> 市民の公共交通への関心を高めるため、各地域の方が公共交通を利用する際に必要な情報に絞った地域別マップ（時刻表、路線図等）を作成するとともに、引き続き出前講座や中学校等の進路説明会での情報提供、イベントでのPR活動を行い、公共交通の認知度向上に努める。 |

4. 【Act】 計画目標の達成に向けた今後の取組方針の作成

次期 羽島市地域公共交通計画の目指す公共交通ネットワークと個別事業

基本方針

人と暮らしをつなぎ、みんなで支えあう地域公共交通ネットワークの構築

目指す公共交通ネットワーク



目標・個別事業 (案)

計画期間

令和7年度～令和11年度

目標1 暮らしに便利でみんなに利用される公共交通の実現

- コミュニティバスの路線・ダイヤの見直し、商業施設等との連携 等

目標2 おでかけ機会を創出し、まちを活性化させる公共交通の実現

- 乗車体験会の開催、ICTを活用した情報発信、公共交通利用ガイド・地域別マップの作成 等

目標3 みんなが知っている、利用しやすい公共交通の実現

- キャッシュレス化の推進、バス停環境の整備、運転免許自主返納者への特典付与 等

目標4 みんなが協力して、ともに支える持続可能な公共交通の実現

- 運転手確保対策の実施、乗り継ぎ割引の実施
コミュニティバスの柔軟な運賃体系の検討 等

| 年度 | 二次評価結果 | 事業評価結果の反映状況 (具体的対応内容) | 今後の対応方針 |
|----|--|--|---|
| 前回 | <ul style="list-style-type: none"> 「mobi」の実証実験について、利用状況、既存の公共交通とのすみ分け、外出等の活発化など、実験データの分析や効果の検証が十分に実施されることを期待する。 | <ul style="list-style-type: none"> 行政と民間が連携し、公共交通の利用促進を図ることができた。 実証実験より取得した利用履歴等のデータから市民の移動実態を把握することができ、今後の交通サービスの検討材料として活用することができた。 | <ul style="list-style-type: none"> 分析したデータを活用し、今後のデマンド型交通の導入可能性等、新たな交通サービスの展開を含めた検討を進める。 |
| | <ul style="list-style-type: none"> 「mobi」とコミュニティバスの使い分けの提案といった企画画やデータ取得等に関し、主体的に関わっていくことを期待する。 | | |
| | <ul style="list-style-type: none"> 次期地域公共交通計画の策定に際しては、評価指標などを始め、引き続き分かりやすさに配慮されるようお願いする。 | <ul style="list-style-type: none"> 評価指標を含め分かりやすさに配慮した上で次期地域公共交通計画素案を作成した。 | <ul style="list-style-type: none"> 分かりやすい計画の策定に向けて引き続き検討を進めていく。 |
| | <ul style="list-style-type: none"> 鉄道の現状も注視し、継続的な利用促進を図られることを期待する。 | <ul style="list-style-type: none"> 公共交通への関心を高めるため、鉄道を含めた公共交通のPRの実施を次期計画の事業として盛り込んだ。 | <ul style="list-style-type: none"> 次期計画に基づき、引き続き交通結節点での幹線交通どうしの接続を維持し、鉄道を含めたPRの実施により利用促進を図る。 |

※前回：令和6年3月21日

| 年度 | 二次評価結果 | 事業評価結果の反映状況 (具体的対応内容) | 今後の対応方針 |
|-----|---|--|---|
| 前々回 | <ul style="list-style-type: none"> バスロケーションシステム（南部線）・デジタルサイネージを導入し、乗り継ぎ・遅延情報などをわかりやすくする環境整備に取り組まれたことを評価する。 | <ul style="list-style-type: none"> 令和5年6月にバスロケーションシステムをコミュニティバス全線に本格導入した。 | <ul style="list-style-type: none"> 利用者の意見を把握するなど、システムの導入による効果検証を実施していく。 |
| | <ul style="list-style-type: none"> バスロケーションシステムをコミュニティバス全線に本格導入し、さらなる利便性向上につながることを期待する。 | | |
| | <ul style="list-style-type: none"> 公共交通に親しんでいただく取り組みとして、イベントでのバス車両展示や中学生対象のコミュニティバス説明会を開催したことを評価する。 | <ul style="list-style-type: none"> 利用促進策として、以下の取組を継続して実施した。 <ul style="list-style-type: none"> ＞ イベントなどでの周知 ＞ 高齢者の運転免許証自主返納者への特典付与事業 ＞ 高校生のバス通学定期購入補助事業 ＞ 公共交通利用ガイドの発行 | <ul style="list-style-type: none"> 引き続き、同様の取組を実施するとともに、公共交通のPR・利用促進を図っていく。 |
| | <ul style="list-style-type: none"> 運転免許自主返納支援事業や通学定期券補助、バスマップの全戸配布を行っていることを確認した。 | | |
| | <ul style="list-style-type: none"> 引き続き利用促進策として、イベントなどでの周知や運転免許自主返納支援事業や通学定期券補助など実施されることを期待する。 | | |

※前々回：令和5年3月10日

PDCAの推進体制

| 対象 | 実施時期 | 評価方法 |
|--------------|-----------------|--|
| ①個別事業の評価・見直し | 毎年度 | ・毎年、事業の進捗状況を確認し、目標達成に向けた事業内容やスケジュールの見直しを行います。 |
| ②個別路線の評価・見直し | 毎年度 | ・バスの運行ルートや運行ダイヤは利便性に大きく影響するため、乗降調査や利用者アンケートの実施により利用状況や利用者の意見・要望を1年ごとに評価・検証し、より利便性の高いサービスが提供できるよう運行計画の見直しを行います。 |
| ③計画全体の評価・見直し | 最終年度 (令和6年度) | ・計画の最終年度である令和6年度に、計画目標及び評価指標の達成状況による評価・検証を行い、本計画の内容について見直しを行います。 |

直近の会議の開催状況

【地域公共交通協議会の実施状況】

○第1回会議 令和6年4月24日（書面協議）

主な議題：R5事業報告、収支決算・監査報告
R6事業計画、当初予算

○第2回会議 令和6年6月11日

主な議題：R7確保維持計画の協議
計画策定スケジュール

○第3回会議 令和6年10月10日

主な議題：次期計画骨子案
各調査結果まとめ

○第4回会議 令和6年12月20日

主な議題：次期計画素案

○第5回会議 令和7年1月21日

主な議題：R5事業評価（自己評価）

○第6回会議 令和7年2月26日（予定）

主な議題：次期計画の協議

今後のスケジュール

次期計画「地域公共交通計画」の策定（R7.3）